

Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 93 February, 2017

〔報告〕
平成29年新春賀詞交歓会

〔建築作品紹介〕
鹿島神宮「祈祷殿・社務所」



一般社団法人
茨城県建築士会

目次

	年頭のごあいさつ 一般社団法人 茨城県建築士会会長 柴 和伸	1
[報告]	平成29年新春賀詞交歓会	2
[建築作品紹介]	鹿島神宮「祈祷殿・社務所」	6
[報告]	2年の歳月をかけ実を結んだ 常総市水害復興への取り組み	8
[シリーズ]	ようこそフレッシュマン! 飯澤 ひろみさん、藤田 克則さん	10
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて 細田 吉貞氏、相澤 晴夫氏	11
[全国大会報告]	第59回建築士会全国大会「大分大会」に参加 茨城会の3名が連合会会長表彰を受賞!	12
[総務委員会報告]	「建設フェスタ2016」に今年も参加	13
[会員委員会報告]	「第25回日帰り見学会」報告	14
[研修委員会報告]	「建築士会インスペクター養成講座」開催	15
	「住宅省エネルギー設計技術講習会」開催	16
[青年・女性委員会報告]	木とふれあう「グリーンフェスティバル2016」に参加	17
	記念すべき「第一回水戸黄門漫遊マラソン」に参加!	18
[女性委員会報告]	ラブアーク セミナー 「板倉構法の家見学会」	19
	「クリスマスアレンジメント作り」	
	「筑波実験植物園見学会」	20
[女性委員会報告]	わくわく セミナー 「電力自由化のいま」	21
	「茶道から見た日本人のこころ」	
[県央支部報告]	第11回都市景観ウォッチング	22
	「新日鐵住金鹿島製鉄所・ケイミュー鹿島工場見学会」を開催	23
[竜ヶ崎支部報告]	平成28年度「茨城県元気な森林づくり活動」支援事業	26
[筑波支部報告]	地元イベント、全国大会、つくばマラソン	27
[常総支部報告]	恒例の「木工教室」と「建物見学会」	28

会報 **けんちく茨城**

題字 橋本 昌 茨城県知事

2017年2月 第93号

表紙写真 鹿島神宮「祈祷殿・社務所」

設計 (株)馬庭建築設計事務所
所在地 鹿嶋市
建築面積 2055.36㎡
延床面積 3145.48㎡
主体構造 S造 地下1階・地上1階

発行 平成29年2月3日(年3回発行)
次回発行 平成29年6月5日予定
発行部数 2,600部
発行所 一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸
〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F
TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330
Eメール kyy05413@nifty.com
URL http://i-shikai.com

編集 情報・広報委員会
デザイン 有限会社平井情報デザイン室
印刷所 株式会社あけぼの印刷社

いっそう活気に満ちた 魅力あふれる会となるように

一般社団法人 茨城県建築士会

会長 柴 和伸



新しい年を迎えての抱負を柴会長に伺いました。

はじめに

昨年は、熊本市・益城町を中心とした大地震、北海道・東北地方の大水害、そして鳥取地震と、日本列島が大きな自然災害に見舞われた一年でありました。被災された多くの方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

明るい話題としては、南米初のリオ五輪で、多くの日本人選手がメダルを獲得し国民に大きな感動を与えてくれました。年末には、世界クラブワールドカップで鹿島アントラーズが世界を相手に大進撃を見せ、アジア初の決勝進出を果たし、また、正月に天皇杯も獲得し、県民に夢と希望を与えてくれました。

一方、国内経済では、国がさまざまな景気対策を講じておりますが、大企業はともかく、地方に暮らす我々が上向いてきたと実感できる状況にはありません。さらに、県内では、公共の耐震改修関連工事がほとんど完了するとともに、少子高齢化の中で公共事業に対する投資や住宅をはじめとする民間投資も減少傾向にあります。

しかし、本県では、圏央道の県内全線開通、東関東道の延伸、常陸那珂港の整備など高速道路や大規模港湾整備が進められており、今後、工場、業務施設の進出など経済波及効果が期待される所です。2019年には茨城国体も開催されます。

我々は、これらの経済効果をしっかり受け止められるよう、皆で互いに協力し合いながら努力していかなければならないと考えております。

会の事業活動

会の事業活動は、従来からの事業が基本となりますが、地域貢献として災害時支援は重要な活動です。鬼怒川堤防決壊の際も行政に協力して被災調査などの支援活動を実施しましたが、今後も素早く支援活動に対応できるよう緊急連絡網の整備、応急危険度判定士の養成、コーディネーター訓練、模擬訓練などを県と連携して実施してまいります。

次に、市町村では、空き家対策特別措置法の施行により、空き家対策計画の策定、特定空き家の指定などを行っていくことが義務化され、これらを検討するための協議会が次々に設置されております。会では、建築専門家の立場から支部と連携して会員を派遣するとともに、空き家相談会にも会員を派遣し、市町村の空き家対策の支援を行ってまいります。

また、会員のスキルアップを目的に始めた「いばらき木造塾」、「工事管理者セミナー」については来年度も引き続き実施します。「ヘリマネいばらき協議会」については、寺社や貴重な古民家など歴史的建造物の調査を継続して行っていきたいと考えております。

会員増強に向けた取り組み

会員が年々減少し、特に若年層の入会がありません。このため、今後とも会員が求める研修・講習会や地域貢献活動などを実施するとともに、会員の交流促進のための親睦事業も実施し、魅力と活力のある会にしたいと考えておりますので、皆様の会員増強へのさらなるご支援・ご協力をお願いいたします。（聞き手=情報・広報委員会 浅野 祐一郎）

平成29年 新春賀詞 交歓会

平成29年1月13日(金) 16:00～
水戸プラザホテル 2階ボールルーム

[式次第]

開会のことば／会長あいさつ／来賓あいさつ／来賓紹介
表彰式／乾杯／賀詞交歓／大抽選会／中締め

新年初めの恒例行事となった新春賀詞交歓会が、平成29年1月13日(金)水戸プラザホテルにおいて開催された。今回の参加者は来賓、会員、賛助会員を合わせて過去最高となる374名。

松山副会長による開会挨拶の後、柴会長から、昨年は熊本市・益城町を中心とした大地震、東北・北海道地方での水害、鳥取地震と、日本列島が大きな自然災害に見舞われた一年であったこと、明るい話題としては、スポーツにおいてリオ五輪で、多くの日本人選手が活躍し国民に感動を与えたこと、また、鹿島アントラーズが世界を相



橋本 昌
茨城県知事



田所 嘉徳
衆議院議員
本会顧問



高橋 靖
水戸市長
本会顧問



白田 信夫
茨城県議会議員
本会顧問

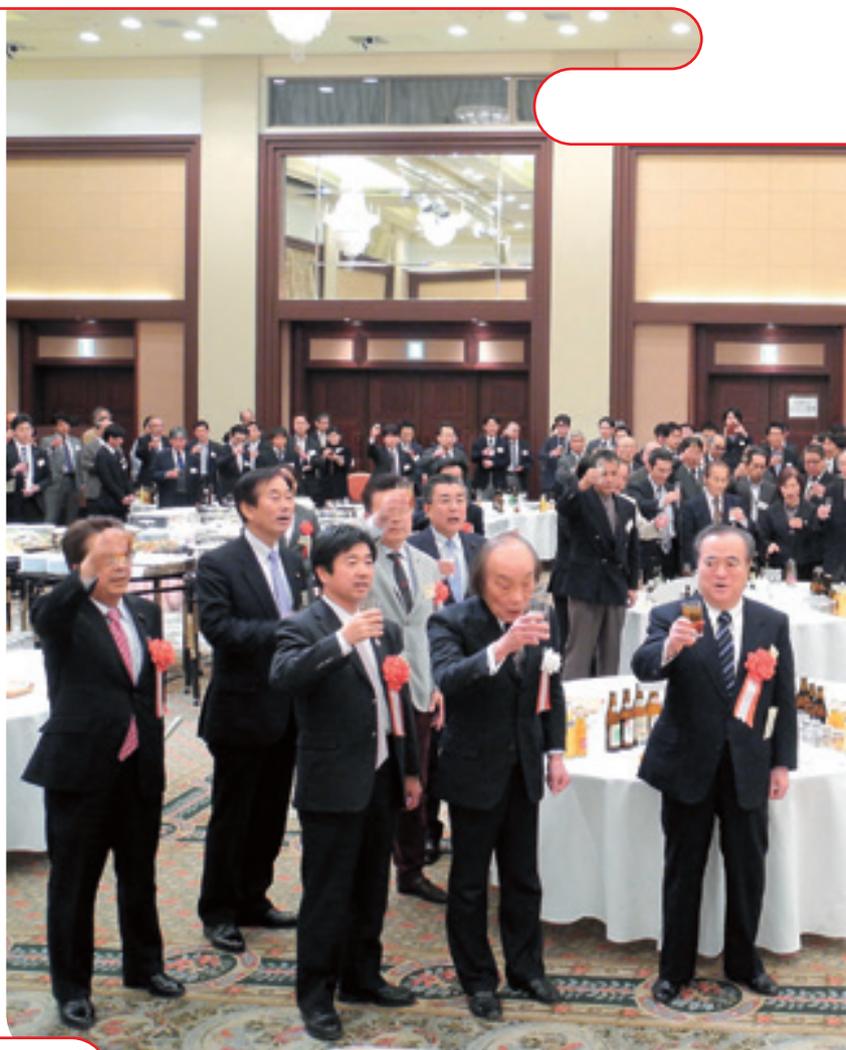


伊沢 勝徳
茨城県議会議員
本会顧問



柴 和伸
本会会長

今年もお互い
がんばりましょう!



新しいことに
チャレンジして
いきたいです

元気が一番!



みんなで力を合わせていきましょう!



手に大進撃を見せ県民に夢と希望を与えてくれたことなどに触れた。一方、国内経済では、以前として厳しい状況が続いているが、本県では、県北芸術祭の成功、圏央道の県内全線開通、東関道の延伸など、流通網の整備が進められており、今後は業務施設の進出、観光客の増加など経済波及効果が期待されることや、2019年に茨城国体が開催されることは、本県にとっては明るい話題でもあるなど新しい年に向けての抱負を述べた。

来賓挨拶では橋本県知事、田所衆議院議員、高橋水戸市長、白田県議会議員、伊沢県議会議員より祝辞をい



「いばらき地域連合型木造住宅提案コンペ」の表彰風景

ただき、続いて昨年県木連が開催した「いばらき地域連合型木造住宅提案コンペ」の表彰式が行われ、各受賞者が表彰された。

その後、茨城県建築士事務所協会横須賀満夫会長の乾杯の発声により祝宴に入り、来賓や他支部の会員、賛助会員の方々と有意義な交流が会場のあちらこちらで繰り広げられた。

また、懇親会では会員・賛助会より提供された景品が当選する抽選会が開催され、最後は液晶4Kテレビが当たるなど大いに盛り上がった。祝宴は盛況のうちに進み、武村副会長の中締めにより終了した。

酉年は政変の年ともいわれています。アメリカをはじめヨーロッパ、ロシア、中国など世界はどこに向かうのか先が読めない世の中ですが、安定した国際社会、国内の景気回復を願い、また会員の皆さんに幸多き年であることをお祈り申し上げます。（報告=情報・広報委員会）



大きな飛躍を遂げる
1年にしましょう!
乾杯!



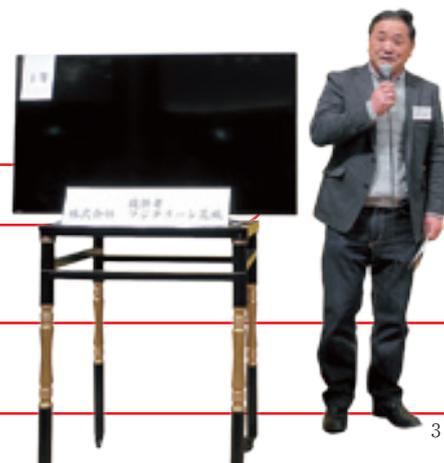
今年もよろしく
お願いします

まさかの大当たり!
ありがとうございます!

いい年にしましょうね



明るい1年にしたいですね



平成29年 新春賀詞交歓会参加者名簿

*当日出席された方のお名前を掲載しています

ご来賓

茨城県知事	橋本 昌	(一社)茨城県空調衛生工事業協会 会長	小川 三郎
衆議院議員 建築士会顧問	田所 嘉徳	(公社)茨城県水質保全協会 理事長	成田 浩明
水戸市長 建築士会顧問	高橋 靖	(一社)茨城県貯水槽維持管理協会 会長	稲葉 貞幸
茨城県議会議員 建築士会顧問	白田 信夫	茨城県解体工事業協同組合 理事長	高野 竜也
茨城県議会議員 建築士会顧問	伊沢 勝徳	茨城県防水工事業連合会 会長	神原 陽一
茨城県土木部都市局長	新 一真	茨城県塗装工業組合 理事長	岡崎 一徳
茨城県土木部都市局建築指導課長	小沼 紀男	茨城ディスプレイ協同組合 理事長	伊藤 三男
茨城県土木部営繕課長	鈴木 安行	(一社)茨城県電設業協会 副会長	園部 昌之
茨城県土木部都市局住宅課長	海老沢 和雄	茨城県石材業協同組合連合会 副会長	長谷川 正一
水戸市都市計画部建築指導課課長補佐	大森 基順	(公社)茨城県宅地建物取引業協会 副会長	車 孝則
日立市都市建設部建築指導課長	沼田 敬元	茨城県鐵構工業協同組合 副理事長	萩原 文雄
土浦市都市整備部建築指導課長	真家 達成	茨城県管工事業協同組合連合会 副会長	會澤 治雄
(一財)茨城県建築センター 理事長	江原 秀明	(一社)茨城県消防設備協会 副会長	入江 元
(公社)茨城県林業協会 理事長	石川 多聞	茨城県電気工事業工業組合 常務理事	宮田 務
(一社)茨城県建築士事務所協会 会長	横須賀 満夫	茨城県左官工業連合会 青年部長	豊田 一雄
(一社)茨城県設備設計事務所協会 会長	菊地 繁	茨城新聞社 水戸支社長	藤枝 智昭
茨城県行政書士会 会長	國井 豊	日本工業経済新聞社 水戸支局長	沼田 好世
(一社)茨城県建設業協会 専務理事	田山 寛治	日本建設新聞社 水戸総局長	井上 哲郎
茨城県木材協同組合連合会 副会長	酒井 宗衛	(一社)茨城県建築士会 相談役	滑川 浩一
茨城県鉄筋業協同組合 理事長	大平 時彦	(一社)茨城県建築士会 相談役	田中 實
茨城県型枠事業協同組合 理事長	佐々木 広行	(一社)茨城県建築士会 相談役	関根 慎一
茨城県板金工業組合 理事長	花田 昇		(敬称略、順不同)

正会員

会長	柴 和伸	日立支部	三澤 俊介	県央支部	大山 早嗣	県央支部	中崎 妙子
副会長	松山 恒男	ひたちなか支部	大内 賢一	〃	岡部 安寿	〃	中山 眞矢
〃	武村 実	〃	上久保 博隆	〃	小川 憲一	〃	沼田 弘次
〃	市毛 純一	〃	近藤 康範	〃	小川 雅良	〃	根本 勝義
常務理事	高槻 一雄	〃	清水 洋一	〃	小貫 弘巳	〃	根本 洋一朗
〃	潮田 充	〃	立花 秀之	〃	小沼 隆志	〃	塙 貴宏
〃	久保田 吉文	〃	浜中 本子	〃	加藤 宜之	〃	塙 秀之
〃	川又 晴彦	〃	山田 博則	〃	金澤 重雄	〃	塙 敏治
北茨城支部	篠原 武司	鹿島支部	内芝 良吉	〃	菊池 洋次	〃	早川 敏史
〃	茅根 信男	〃	椛山 光彦	〃	譽田 久恵	〃	平沼 清美
久慈支部	市川 三和子	〃	高橋 文男	〃	久野 正行	〃	藤田 康広
〃	梶 ひろみ	〃	中園 薫	〃	倉田 章吾	〃	舟幡 健
〃	藤井 耕市	〃	細田 吉貞	〃	小坪 真司	〃	松下 理
高萩支部	佐藤 新一	県央支部	浅子 明美	〃	小林 要	〃	宮本 久
〃	棚谷 哲夫	〃	浅野 祐一郎	〃	小室 晶	〃	盛田 周作
〃	豆澤 時雄	〃	安達 芳男	〃	小室 克己	〃	守田 義広
日立支部	石黒 幸喜	〃	荒川 芳和	〃	齋藤 章	〃	柳下 文江
〃	梅原 郁夫	〃	飯島 隆	〃	齊藤 栄治	〃	山田 一博
〃	加藤 雅史	〃	池崎 栄二	〃	酒寄 光一	〃	横須賀 孝
〃	菊池 積	〃	井坂 光宏	〃	櫻井 充	〃	吉田 進
〃	白石 国寛	〃	石井 裕子	〃	佐藤 哲夫	〃	吉田 雄一
〃	反町 靖秋	〃	石川 啓司	〃	篠根 玲子	〃	和田 淳一
〃	坪和 昭男	〃	石田 一裕	〃	椎名 康一	〃	渡辺 淳夫
〃	富田 義光	〃	石田 泉	〃	鈴木 壮一郎	〃	渡辺 信一
〃	生田目 昇	〃	宇留鷺 博一	〃	鈴木 祐二郎	〃	
〃	松崎 行夫	〃	遠藤 洋三	〃	関根 貴雄	〃	県庁支部
		〃	大鐘 孝弘	〃	瀬谷 和人	〃	小笠原 正裕
		〃	大部 淳一	〃	田中 和明	〃	野澤 謙次
				〃	田中 健一	〃	増澤 敬
				〃	田中 正巳	〃	JR水戸支部
				〃	飛田 直身	〃	諸川 博幸
				〃	富田 正美	〃	行方支部
							田中 修治

行方支部	橋本 照雄	下妻支部	霜村 修	石岡支部	海老原 隆士	筑波支部	中山 正巳
〃	原 正樹	〃	広瀬 元二	〃	菊地 直衛	〃	長瀬 行弘
〃	藤崎 政行	常総支部	杉田 次夫	〃	鳥田 哲	〃	野口 克典
〃	本澤 幸一	〃	高野 武	〃	三輪 清司	〃	堀江 功
〃	六笠 勝也	〃	福田 明良	〃	吉田 良一	〃	本間 信明
〃	六笠 勝也	〃	松崎 マサ子	〃	和田 邦裕	〃	〃
鉦田支部	葛西 栄一	筑西支部	大和田 信雄	稲敷支部	永長 工市	土浦支部	青山 立美
〃	鎌田 富士夫	〃	郡司 政美	〃	永野 誠	〃	赤木 香菜子
〃	久米 恒雄	〃	小薬 拓巳	〃	新田 孝司	〃	赤木 裕子
〃	田崎 重司	〃	小島 時夫	〃	根本 浩司	〃	石坂 健一
古河さしま支部	小沼 富司	〃	谷島 正憲	〃	藤代 利雄	〃	入江 謙吾
〃	長谷川 正幸	〃	柴 博美	〃	依田 慎一	〃	大野 雅明
〃	村山 智美	〃	〃	〃	〃	〃	小神野 栄
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小林 明江
桜川支部	飯島 一則	坂東支部	石塚 政文	北相馬支部	石田 博英	〃	鈴木 啓之
〃	飯島 洋省	〃	滝本 武	〃	小磯 俊明	〃	須藤 隆
〃	石島 隆	〃	名越 伝	〃	篠崎 達	〃	塚本 美明
〃	市村 洋	〃	増田 昌大	〃	土井 金哉	〃	豊崎 晋也
〃	鈴木 孝和	〃	森 均	筑波支部	相澤 晴夫	〃	中村 眞紀子
〃	高橋 悦也	結城支部	雨甲斐 晃	〃	青木 孝二	〃	増山 栄
〃	比企 正信	〃	小貫 廣利	〃	潮田 浩	〃	若柳 綾子
〃	古橋 明	〃	小谷野 栄次	〃	沖山 哲夫	竜ヶ崎支部	家富 秀一
〃	渡辺 清一	〃	田中 一博	〃	河野 正博	〃	成田 孝成
〃	〃	〃	立堀 孔一	〃	斉藤 保弘	〃	〃
下妻支部	飯村 純男	〃	西木 照久	〃	佐久間 裕二	〃	〃
〃	軽部 守彦	〃	〃	〃	中泉 文夫	〃	〃

賛助会員

アイ・アール(株)	神谷 かおる	クレハ建設(株)関東支店	鈴木 忍	常陸大理石(株)	佐川 功
アオキ(株)	青木 雄司	(株)建築資料研究社	海老澤 和久	(株)日立ビルシステム	尾崎 貴規
〃	安藤 豊志	〃	興津 操	〃	加藤 貴浩
(有)アカオギ塗工	赤荻 弘	〃	柿本 和彦	〃	山口 史子
暁飯島工業(株)	岡崎 和裕	〃	梁田 馨	ビルトマテリアル(株)	伊藤 清
〃	平塚 亨	(株)建友	根本 学	〃	桑田 展佳
(株)東屋 三の丸ホテル	荒井 勉	コスモ総合建設(株)	池田 勇夫	〃	吉田 浩樹
(株)アルク	高羽 紀幸	〃	菅原 秋彦	(株)フジクリーン茨城	大竹 伸一
(株)安心確認検査機構	伊勢山 司郎	小西(株)	石塚 紀昭	〃	大竹 昌士
〃	滑川 浩一	小松ウオール工業(株)	片見 弘幸	〃	小澤 啓一
〃	舞木 善郎	(株)サンライフコーポレーション	篠塚 翔太	フジグリーン工業(株)	加藤 康宣
(一財)あんしん財団	池田 秀一	〃	根本 正弘	不二サッシ(株)	響田 一郎
〃	小川 英明	三和シャッター工業(株)	安田 則之	〃	森本 浩之
〃	濱 武史	(株)新栄電気通信工業	庄司 泰世	(株)フジタビジネスマシズ	藤田 卓也
〃	溝井 正彦	(株)新日東	鈴木 紀英	〃	宮部 正栄
(株)伊勢甚本社水戸プラザホテル	綿引 章博	(株)住金システム建築	井手 賢	北海道バケット工業(株)	川野辺 剛史
茨城県林業種苗協同組合	大越 靖史	〃	津之浦 寛	〃	高根 満男
茨城県建設技術公社	奥津 広	清和工業(株)	小原 弘二	前田製管(株)茨城支店	安藤 直哉
〃	小泉 恵三	センター印刷(株)	鈴木 真吾	三谷セキサン(株)	小山 秀人
(一財)茨城県建築センター	石川 麻菜	(株)総合資格	小林 丘仁夫	ミナト防災通信工業(株)	石井 浩二
〃	打越 信久	(株)染野製作所	鈴木 晴己	〃	仙北谷 正明
〃	川崎 牧子	〃	染野 真一	(有)カネミツ商会	小田 真吾
〃	佐藤 昭市	高橋商事(株)	高橋 勲	(有)三企地盤	青木 俊明
〃	藤 康弘	大一木材(株)	亀山 和紀	〃	小沼 功
〃	関 孝憲	大建工業(株)	佐々木 浩二	ユーディーアイ確認検査(株)	宇野 雅視
茨城寺岡オートドア(株)	松田 公建	〃	山県 浩久	〃	竹谷 浩彰
植田防水工業(株)	栗原 信	(株)ダイワ商会	高輪 剛志	(有)平井情報デザイン室	平井 夏樹
(株)エスアールエスディービー社	小澤 康二	〃	高輪 則夫	(株)弓削コンクリート工業所	弓削 裕史
〃	須藤 崇人	(株)千代田興業	坂井 康秀	横信建材工業(株)	横須賀 靖
〃	須藤 裕市	筑波研究学園専門学校	大野 克典	(株)LIXIL 茨城支店	大林 正明
(株)角藤	小林 聡	〃	原 智樹	〃	高橋 優
〃	小林 信幸	TOTO(株)	木本 孝一	〃	兵 渉
〃	村田 弘就	ナブコシステム(株)	黒滝 浩之	リンナイ(株)水戸営業所	佐々木 雄一
株木建設(株)	村島 俊太	〃	藤田 正美	YKK AP(株)	伊藤 万喜男
(株)関東エンジニアリングサービス	上野 道昭	(株)奈良屋	横山 昌弘	〃	大塚 愛美
(株)菊正塗装店	鈴木 章	(株)西尾家具工芸社	内山 貴博	〃	中武 剛
(株)菊地設備設計事務所	石川 将人	日本ERI(株)つくば支店	中村 浩	和知商事(株)	石川 弘幸
〃	横山 務	日本板硝子関東販売(株)	江ヶ崎 隆男	〃	和知 忠道
(株)北雄産業	梅村 卓宏	〃	中尾 基伸	〃	和知 紀良
〃	鈴木 大二郎	〃	中野 祐樹	〃	〃

[建築作品紹介]

鹿島神宮「祈祷殿・社務所」

千古の歴史を有する社殿に随伴する
森と調和した神厳な空間



上：祈祷殿全景 下：祈祷殿内部



上：1階待合スペース 下：地下ラウンジ

鹿島神宮「祈祷殿・社務所」

所在地 茨城県鹿嶋市

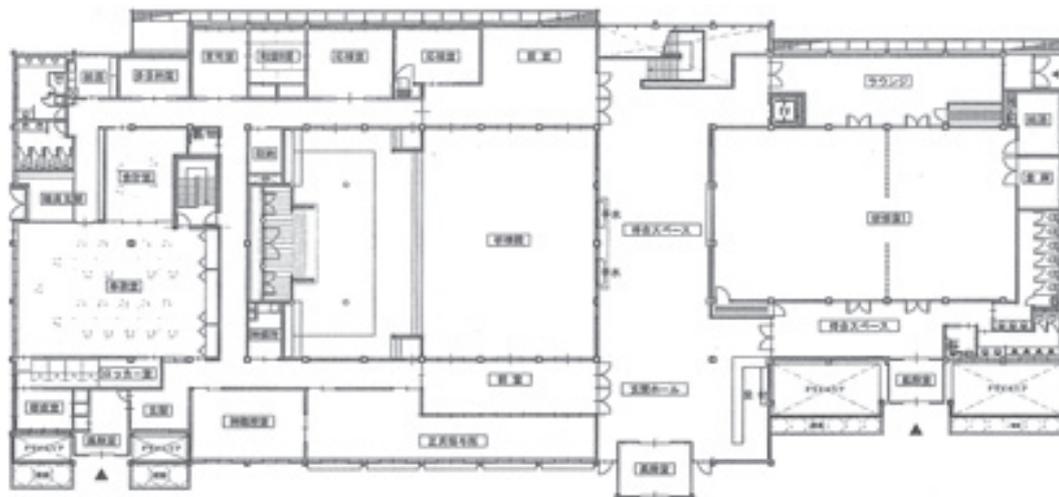
建築面積 2055.36㎡

設計 株式会社馬庭建築設計事務所

延床面積 3145.48㎡

主体構造 S造 地下1階・地上1階

1階



地下1階



創建・伝承について

鹿島神宮は、日本建国・武道の神様である「武甕槌大神」を御祭神とする、神武天皇元年創建の由緒ある神社です。創建の歴史は初代神武天皇の御代にさかのぼります。神武天皇はその御東征の半ばにおいて思わぬ窮地に陥りましたが、「武甕槌大神」の「部霊剣」の神威により救われました。この神恩に感謝された天皇は御即位の年、皇紀元年に大神をこの地に勅祭されたと伝えられています。その後、古くは東国遠征の拠点として重要な祭祀が行われ、やがて奈良、平安の頃には国の守護神として篤く信仰されるようになりました。

中世～近世になると、源頼朝、徳

川家康など武将の尊崇を集め、武神として仰がれるようになります。

現在の社殿は徳川二代将軍の秀忠により、また奥宮は徳川家康、楼門は水戸初代藩主徳川頼房により奉納されたもので、いずれも重要文化財に指定されています。

祈祷殿について

鹿島神宮にお参りする人が最初に感動するのが境内の樹木の大きさと数の多さです。

霊木が立ち並ぶ奥深い神域の中で、千古の歴史を有する社殿に随伴する新しい祈祷殿・社務所・参集殿を一体の建築として計画しました。

配置に当たっては、大鳥居から楼門として奥宮に続く真つすぐな既存

の参道に対し、新たに御本殿を起点に北に延びる参道を設け、参拝者のための境内整備と拡張を図りました。

建物は谷を立体的に利用することで低く抑さえ、景観上からは入母屋屋根は三つの棟に分節し、屋根の流れも二段とし、棟や軒先は水平ラインで整え、本殿や森との調和を図りました。

内部では、玄関ホール・待合から吹き抜けで連続した地階待合ホールに最大限に鹿島の緑を取り込んでいます。中心となる祈祷殿の中の御神殿は伝統的な千鳥破風と唐破風の組合せに栓皮茸とし、また柱や梁に境内の黒い杉を使用し、LED照明を用いて、ご祭神の武甕槌大神にふさわしい神厳な空間としました。

2年の歳月をかけ実を結んだ 常総市水害復興への取り組み

災害時の相談・支援システム「ネットワーク常総」を立ち上げ 報告：常総支部 田島 洋子

平成27年9月10日・11日に、関東・東北豪雨による鬼怒川水害が発生しました。被災者側から見た被災後の流れは、大まかに3段階に分けて考えられます。

①身の安全、食料・居場所の確保
②住居の片づけ、市による建物調査と補助金受領、応急修理工事実施——使えなくなったものを処分し、汚泥も撤去し、補助金を受けて最小限の工事を行う。または保険利用や私費によって工事を行う。因みに、水が引いた後の汚泥の撤去、濡れた家財道具の処分などでボランティアの方たちが本当に素晴らしい活躍をしてくださった。

③生活の立て直し——部屋の内部や壁の中などにカビが生え、健康被害が発生。住居全体の工事は未完了という家も多い。住宅の問題が顕著になってくるこの段階までに、市と連携が取れた組織として建築士会の相談・支援窓口があれば、必要な時に相談に訪れて住居に関する困りごとに適切に対処する助けとなる。

相談・支援システム「ネットワーク常総」は、上記のニーズを受けて、常総市建設課、建築士会まちづくり委員会、常総支部の3者で協議を重ね、立ち上げられました。これは、常総支部と市建設課がかつて連携して運営していた「水海道市民住宅相談窓口」がベースになったものです。当時の資料提供をはじめ、被災者立場から運営方法に関して意見を述べるなど、常総支部会員が直接関わって形づくられました。



平成28年2月の小委員会の様子



平成28年6月に鬼怒川を視察し、応急復旧の説明を受ける

「ネットワーク常総」運営の流れは、以下のように決定されました。

- ①被災建物の相談受付を常総市が行う
- ②市から常総支部長に伝達、支部長が建築士会本部や周辺支部に連絡を取りつつ、予め募ってリストアップした相談員へ伝達（周辺支部に連絡を取るのには、相談員自身が被災して対応できない場合に応援を要請するため）
- ③市役所庁舎内にて係員2名以上で窓口立ち、相談に応じる
- ④工事の相談の場合は、同じくリストアップされた工事会員が対応する
注意点は、災害発生時にのみ運

営する組織であるため、相談員・工事会員がいざとなったときに慌てしまわないよう備えておく必要があることです。私も相談員として役立てるよう、防災意識を持って、日ごろから建物に関わっていきたいと思います。

なお、地域貢献活動の一環として常総市の歴史的建造物活用などを計画していく予定であったまちづくり委員会が、今回の水害を受けて予定を変更し、市と常総支部との間に入ってとりまとめを行っていただきました。感謝いたします。今回の「報告会+歴史勉強会」も、会員のみならず市民も参加し、意義深いものになったと思います。

平成27年9月に発生した豪雨により、甚大な被害を受けた常総市。その復興と今後の備えに向けて、「常総支部」と「まちづくり委員会」が、常総市とともに取り組んできた事業が結実し、その発表会が行われました。

歴史から学び未来へつなぐ― 水害に備えたまちづくり 報告：まちづくり委員会 鎌田 富士夫

平 成28年9月24日(土)13:30～16:00、常総市地域交流センターホールにて、27～28年度の2ヵ年にわたり自治体と携わってきた「常総市災害復興」の連携事業の成果発表「報告会+歴史勉強会」を行いました。

初めに「常総市とその周辺の水害の歴史」と題した、常総市歴史研究家の石塚安一郎氏による講演で、戦国時代からどのようにして鬼怒川と小貝川に挟まれた湿潤で不毛な低湿地を開発してきたのか、また度重なる水害と闘い続けてきた訳や、揚げ船等の先人の知恵について学びました。

続いて、「災害時の被災建物に関する相談・支援システムの構築」と題した建築士会常総支部の栗原力男氏による成果発表では、システム構築までの経緯と、常総支部が「ネットワーク常総」を立ち上げることで、災害時において、相談支援と工事支援が速やかに行えるようになるとの報告がありました。

「水害時に対応できる復旧しやすい建物の建て方と仕様の提案」と題した建築士会まちづくり委員会の岩永至功氏による提案発表では、冒頭で、昨年の洪水により連携事業を「魅力的な川辺のまちをめざして」から「災害に備えた『まち』利活用」へ急遽軌道修正したことを報告。その後、被災住民へのヒヤリング調査と調査員に対するアンケートに基づき、被災のリスクを軽減した建て方についてまとめた、「水害に備えた家づくり」と題した見開きのパンフレットの



ネットワーク常総の成果を発表する常総支部の栗原氏



常総市歴史研究家
石塚安一郎氏



常総支部
栗原力男氏



まちづくり委員会
岩永至功氏



筑波大学教授
大澤義明氏

説明と、水害の記憶を留めるため作成した「水害シール」の紹介がありました。さらに、これからの活動目標として、被災のさらなる分析をして住宅建築に関わる「常総モデル」と、生活やまちづくりに関する「常総スタイル」の構築を揚げ、今は河川に背を向けたまちになっているが、河川のまちである常総市の良さを活かし、河川を楽しむこと(リバーフロント・河川を使ったアクティビティ)により、防災・生態系の保護・まちの活性化に繋がるとした提言がありました。

発表後は、来場者から今後の土地地区画整備計画の在り方について言及した質問等、活発な質疑応答

がありました。

最後に、常総市復興計画策定委員会委員長・筑波大学教授の大澤義明氏から、歴史と各成果発表についての感想と、自治体と連携した実効性や水害経験を全国に発信することの大事さについて、さらに地元の学生たちによるワークショップと高・大の連携プロジェクト活動事例の一部を紹介しながら、これからは、地元を想う発想の豊かな若い人の意見も聞き入れ、連携しながら、若い世代のこころを掴むまちづくりをして、「住みたい」を大切にする常総市になって欲しいとの総評をいただきました。

ようこそ フレッシュマン!!

Welcome Freshmen!!

建築士会に新たに入会した
会員の方々を紹介するコーナー。
今号では2名の皆さんに登場いただき、
建築士会会員となつての
抱負などについて伺いました。



飯澤 ひろみ さん

平成28年入会
[高萩支部]
飯澤不動産(株)

会の活動に積極的に参加し、交流を深めて 自身の成長につなげていきたい。

本年度より建築士会に入会し、高萩支部の一員となりました飯澤と申します。

お世話になっている方の紹介で入会しました。近年の不動産業界にも、中古住宅の流通促進の動きや、インスペクションの普及など建築の知識は欠かせないと思っているので、この入会を

機に積極的に講習会や研修に参加できたらと思っています。

まだまだ未熟者ですが、会員の方との交流を通して、建築のこと、不動産のこと、いろいろと勉強して自身の成長につなげていければと思いますのでよろしくお願いします。



藤田 克則 さん

平成28年入会
[筑波支部]
Live Haus 建築設計所

タテ・ヨコのつながりをつくり、 災害時の活動や空き家問題などを考えていきたい。

独立して約5年が経ち、活動の根拠があることの重要性を意識するようになりました。そして、ひとりでは限られがちな「できること」を広げていきたいという期待もあり、入会しました。タテ・ヨコのつながりをつくり、災害時のボランティアや空き家問題など、公益

面について考えていけたらと思います。

一方で、私が今まで学んできたことを地域の皆さんにお伝えする年齢になってしまったかなという気もします。遅ればせながら、よろしくお願いいたします。

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、お話を伺うコーナー。今回は、鹿島支部の細田 吉貞氏と、筑波支部の相澤 晴夫氏を訪問し話を伺いました。聞き手＝情報・広報委員会



「厳しさに耐え、本来の建築士の職能を身につけることが大切」

細田 吉貞 氏（鹿島支部）

昭和21年生まれ／昭和51年入会／会員歴40年

細田測量設計事務所代表。土地家屋調査士、測量士、宅地建物取引士、一級建築士の資格を持つ。地域柄建物を建築するにあたっては測量から始まり土地の登記、建築確認申請、完成後の建物登記までこなさなければならず、関係する資格を数年かけて取得。建築士会への入会は昭和51年頃。

——鹿島支部長としての抱負をお聞かせください。

昨年の役員改選時に支部長の役を受けました。支部長の立場になりますと会員としてのメリットを伝えなければなりません。非会員との区別として会員の

特権となるものを創りだして欲しいものです。

——今後の士会に必要なことは何でしょうか。

社会における建築士の立場は、責任も重く厳しい状況にあると思われます。ただ、この厳しさに耐えて、本来の建築士の職能を身につけることが大切です。柴会長をリーダーとして建築士会も良い方向に改善されつつあります。より多くの建築士という有資格者、特に若い会員の方が加わるのが会の活性化のために、将来のために必要です。私も一会員として今後も会の発展のために貢献できたらと思います。



「多くの友人を作ることが、人間力を高める近道」

相澤 晴夫 氏（筑波支部）

昭和32年生まれ／昭和60年入会／会員歴31年

昭和32年生まれの59歳。昭和59年に一級建築士を取得し、翌年に建築士会に入会。当時の住まいは稲敷郡荃崎町であったので竜ヶ崎支部の会員となる。その後、つくば市との合併があり、平成16年頃に筑波支部に移籍。6年程前から筑波支部にて総務の業務を手伝うようになり、今年度から支部長に就任。

——筑波支部長としての抱負をお聞かせください。

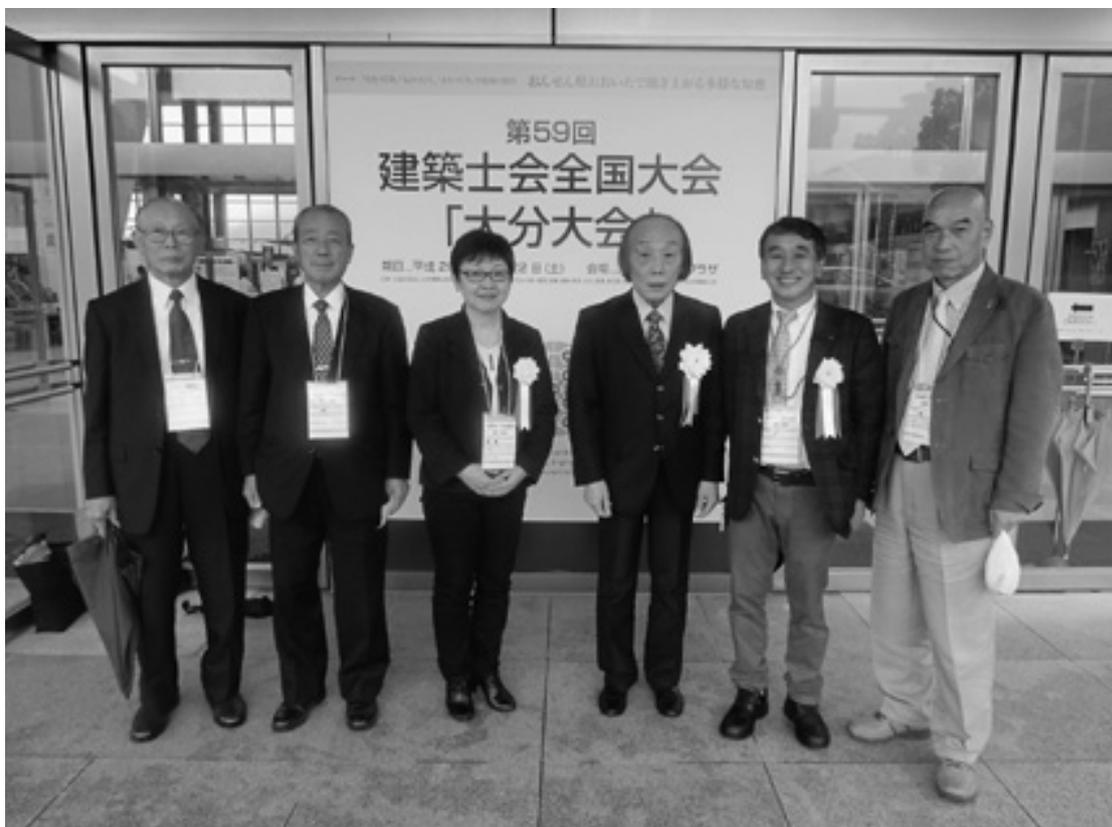
現在筑波支部では、20数名の方が中心となり活動しています。今後はより多くの会員の方々に活動に参加していただくことにより、どのような活動をして

いるかの理解を深め、積極的に会活動に参加したいと思える雰囲気を作り上げていきたいと思います。また、若い方々のスカウトに特化した会員委員会を支部内に設置し、積極的な会員増強に力を入れたいと考えています。

——後輩にメッセージをお願いします。

この会には設計に携わる方から施工までと多くの分野で活躍する方がたくさんいらっしゃいます。私もそうでしたが、士会の活動を通じて仲間を作り、信頼関係を築き、様々な知識を身に付け、人間力を高めることができるはずです。楽しく積極的な活動を心がけてほしいと思います。

第59回建築士会全国大会「大分大会」に参加 茨城会の3名が連合会会長表彰を受賞！



表彰を受けた梶ひろみ氏（左から3人目）と野口克典氏（右から2人目）。大会会場前で会長・副会長達とともに。

平成28年10月22日(土)に大分県別府市ビーコンプラザにおいて、平成28年度建築士会全国大会「大分大会」が開催されました。茨城会からは52名が参加し、3名の会員が連合会会長表彰を受賞しました。受賞された会員の皆様は下記の通りです。

平成28年度連合会会長表彰者

野口 克典氏（前筑波支部長）

梶 ひろみ氏（前まちづくり委員長）

長谷川 正幸氏（古河さしま支部長）

3名の皆様、誠にありがとうございます。今後のさらなるご活躍を期待しています。



式典風景



大分チアリーディング部のパフォーマンス

表彰者を代表して、野口氏にコメントをいただきました。

「第59回建築士会全国大会『大分大会』が、湯けむり小雨の中、別府市ビーコンプラザにて開催されました。

その中で連合会長彰を受賞したことは、大変栄誉なことでありました。この受賞は、本部・支部等の皆様のご支援の賜物、特に支部の

大会参加の皆様のご協力のおかげと感謝いたします。ありがとうございます！

これからも茨城県建築士会の活動に参加協力し、士会の魅力等を会員及び会員以外の皆様にアピールしていきたいと思っております。そして若き建築士の入会の増加と、建築士会のさらなる発展を望みます」（野口）



「建設フェスタ2016」に今年も参加 恒例の苗木配布は600人以上が集まる人気ぶり

平 成28年10月30日(日)に、ひたちなか市の笠松運動公園特設会場で、「建設フェスタ2016」が開催されました。これは建設・土木等の関連団体52団体が参加する国内最大級のPRイベントで、建築士会も今年で12回目の参加となります。

毎年なぜか天候には恵まれないフェスタでしたが、今年は快晴とまでは言えませんでした。雨が降ることもなく順調に開催され、多くの来場者で賑わう盛大なイベントとなりました。

毎年、環境保全をアピールするため、建築士会を中心に茨城県建築センター、茨城県建築士事務所協会と連携して苗木の無料配布を行っています。今年はブルーベリーの苗木を各200本、3団体合計で600本無料配布しました。特に建築士会のブースの前には、2回に分けての配布に対し合計で600人以上の行列ができ、渡せなかった来場者には数種類の花の種を配布するという事態となりました。また、本会の主旨に賛同し、ともに参加し



苗木配布の様子。今年はブルーベリーの苗木を配りました。

ている賛助企業3社が用意した綿菓子やスナック菓子、輪投げのアトラクション、漆喰を使った絵書き等にも多くの子ども達が殺到し、活気あふれる士会のブースとなりました。そのほか、建築士の役割をクイズにした「クイズラリー」にも、多くの家族連れが参加してくれました。

例年子ども達のために、建築に関連する模型を用意していましたが、今年は建築士会をPRするために参

加した「第1回水戸黄門漫遊マラソン大会」や、木材利用促進をアピールする「グリーンフェスタ2016」などと日程が重なり、多くの委員や会員派遣配分のやりくり、事務局も苦慮していました。

来年もフェスタを通じて、建築士会の認知度をさらに高めるとともに、当会の重要性を社会に周知する努力を継続していきたいと思えます。

「第25回日帰り見学会」報告 総勢85名で「東京スカイツリー」「築地」を“遅刻なし”で満喫！

第25回となりました「日帰り見学会」。平成28年11月3日は午前中雨の予報でしたが、さすが「晴れの特異日」、イヤ、そこは毎年恒例「建築士会 日帰り見学会日」！朝の集合時には雨も上がり、晴れ間が見え始めました。今年のコースは①東京スカイツリー ②築地場外市場 ③銀座周辺の自由散策です。総勢85名。たくさんの方々にご参加をいただきありがとうございました。

①東京スカイツリーは、天気の良い祝日にもかかわらず「少し混雑」程度の状況でした。360度東京を見下ろせる絶景の大パノラマを堪能できましたので、11月3日は意外と穴場のスポットかもしれません。私は見学もそこそこに…前日の夜、妻より笑顔でそっと手渡された「スカイツリー内限定お土産リスト」を片手に握りしめ2階・5階へと買い物に。これさえ済めば今日のミッションはほぼ完了。あとはのんびり楽しむだけです。

②築地場外市場では、根本委員長に誘っていただき15名ほどのグループで昼食を取りました。私は海鮮丼を注文したのですが、やっぱり築地はすごい！器がデカイ！盛られた身が多い！味も絶品！普段廻るお寿司を食べ慣れている私には衝撃の体験でした。



東京スカイツリーでの記念撮影。今回は、総勢85名の方が参加されました

③自由散策では銀座ソニービルと銀座プレイスを見学。銀座プレイスの1階には日産ショールームがあり、4階・5階ではソニーの新品、今話題のVR体験コーナーや最新のヘッドホン・デジカメ等が展示さ

れており興味深かったです。

以上、大変充実した一日を過ごすことができました。私は今回が初参加でしたので、何事も新鮮でしたが、一番印象に残ったのは集まりの早さです。水戸出発集合時間20分前には乗車率85%（見た感じ）！！その他ガイドさんのお知らせ出発時間5分前には常に集合完了、遅刻者などはいませんでした。さすがは建築士会の皆さまです。

次回も、晴れの日帰り見学会を心より期待しています。



銀座ソニービル



銀座プレイス1階の日産ショールーム



「建築士会インスペクター養成講座」開催 茨城県のインスペクター登録数は、現在245名です



講義風景



講師の山中先生

平成28年8月18日に茨城県開発公社ビル4階大会議室において「建築士会インスペクター養成講座」を行いました。

国土交通省は平成25年6月に「既存住宅インスペクション・ガイドライン」を策定し、中古住宅売買時の利用を前提としたインスペクションの指針を示しました。アメリカ、オーストラリア、イギリスなどでは、不動産取引の際に第三者が行うホームインスペクション（住宅診断）が普及しています。日本ではこれまであまり

行われてきませんでした。全国の空家数が820万戸を超え、中古住宅の流通を活性化させる取り組みが活発化しており、中古住宅の売買時のインスペクションのニーズが高まっています。インスペクションにより、消費者が安心して中古住宅を取得でき、中古住宅の流通を活性化して、空き家減少につながる事が期待できます。日本建築士会連合会は、長期優良住宅化リフォーム推進事業におけるインスペクター講習団体として国土交通省に登録

し、当講座を全国の建築士会で開催して建築士会インスペクターを養成しています。

茨城県においてはインスペクター養成講座を茨城県建築士会が担当して行っています。今回の講習をもって茨城県のインスペクター登録者数は計245名となりました。次年度以降の開催も検討しておりますので、会員の皆様、受講をよろしくお願ひします。

「住宅省エネルギー設計技術講習会」開催 合格者には、「[設計] 技術者講習修了証」を発行しました

平成28年11月8日に土浦市民会館会議室において、11月21日には茨城県建設技術研修センター大会議室において、「住宅省エネルギー設計技術講習会」を開きました。

平成28年4月に「建築物省エネ法」が施行され、国は平成32年までに新築住宅の省エネルギー基準への100%適合化を目指しています。省エネ基準適合の住宅をつくるためには、断熱施工技術に加えてプランニングなどの意匠設計から設備設計まで、

トータルで取り組まなければなりません。

本講習では、地域の木造住宅生産を担う設計者を主な対象として、建築物省エネ法（平成28年省エネ基準）に基づく断熱等の外皮性能に関わる内容を中心に半日で省エネ基準に則した評価方法を分かりやすく周知、習得することを目的としていま



熱心に講習を受けるみなさん（水戸会場）

す。講習会では、受講者に対し調査を行い、合格者には「住宅省エネルギー [設計] 技術者講習修了証」を発行します。

3年目となった本年度は、175名の受講がありました。

地球温暖化を抑制するため、住宅内でのヒートショックや熱中症などによる事故を防ぐため、居住者の

光熱費抑制のためなど、ますます住宅の省エネ化は求められています。

適切な断熱工事の施工のための施工技術講習とあわせ、プランニングや適切な断熱材や設備機器の選択・各部納まりなど、省エネ設計を学ぶ設計技術講習をぜひ受講され、今後の業務に役立てていただきたいと思います。



木とふれあう「グリーンフェスティバル2016」に参加 大人も子どもも「ダンボール工作」にすっかり夢中！



大人も子どももダンボールで楽しく工作

平 成28年10月30日(日)、宮の郷工業団地(常陸太田市、常陸大宮市)にて、木とふれあうイベント「グリーンフェスティバル2016」が開催されました。

グリーンフェスティバルは、「森林の大切さ」や「林業の現場」をPRするイベントとして開催されているものです。

肌寒い日にもかかわらず、当日は約3,000人の来場者がありました。イベントでは、最新の木質バイオマス発電所や、木材から家ができるまでを紹介する木の工場見学、ミニ上棟式、木のおもちゃづくりや、各種参加団体のPRブース、地元常陸太田市や常陸大宮市の特産品販売ブースなどが設けられていました。

茨城県建築士会では、親子向けのワークショップとして「ダンボール工作」を実施しました。ダンボールから抜いた型をのりやテープを使用せず、説明書通りに組立てていく工作です。工作キットは、恐竜、カブトムシやうさぎなど6種類を用意し、

男女問わず子どもたちが好きなものを選ぶようにしました。また、カラーペンを用意し、自分だけの作品を作れるようにしました。

ブースはイベント開始から親子連れで賑わっており、用意した3箇所のテーブルはすぐに順番待ちの状態となりました。説明書を読みながら一人で頑張っている子どもや、親御さんと協力して一緒に作っている子どもなど、どの子どもたちもそれぞれの工作を楽しんでいました。

なかには、子どもより親御さんが夢中になって作っている姿や、自分が作った作品を大切に持ち歩いているお子さんの様子も見られました。

今回イベントに参加させていただき、年齢に関係なく工作を楽しんでいる様子を肌で感じ、「ものづくり」には人を惹きつける魅力があるとあらためて感じました。今後も多くの方にもものづくりへの興味を持っていただけるよう、活動を続けていきたいと思えます。



最後まで大盛況でした

「建築士会 県央支部」の輝くタスキを胸に、 記念すべき「第一回水戸黄門漫遊マラソン」に参加!!



無事完走し、高橋市長と増田明美さんと一緒にパチリ!

平成28年10月30日(日)、「第一回水戸黄門漫遊マラソン」が開催されました。

私たち県央支部青年部は、建築士会を地域の方々に身近に感じてもらう活動の一環として、タスキとキャップを作り、毎年ひたちなか市の「勝田マラソン」に有志を募り参

加してきましたが、今回は私たちの馴染みの深い水戸市での初開催の大会ということもあり、県央支部青年部より3名が参加しました。

当日は晴天にめぐまれ、10月下旬とは思えない暖かい陽気に、足取りも軽くスタートしました。普段何気なく車で通り過ぎる道も自分の足で踏

みしめることで景色も違って見えます。千波湖を左手に見る下り坂は絶景でした。苦しい坂道を登っている時は市民の皆様から「建築士会ガンバレ!!」とたくさんの声援をいただきました。

昨今の健康志向の高まりなどを背景に続く空前のランニング人気は、もはやブームという域を脱し、ライフスタイルのひとつとして定着しています。このような時代のトレンドに合わせたイベントに参加し、市民の皆様とともに汗を流すことで、建築士会の活動を地域にアピールすることができたと

実感できました。

県央支部青年部としては、第一回からの参加ということもあり、毎年恒例のイベントとして参加者を募り継続していきたいと思ってます。「希望と勇気のある姿」を見ていただけるよう、建築士会の発展のため走り続けていきたいです。



ラブアークセミナー「板倉構法の家見学会」 天然素材に触れながら、その効能や歴史、背景を学ぶ



板倉構法の前で

1 件目のA邸は、コンパクトな2階建ての住宅で、杉の壁、床、天井などに自然素材が使用されていました。説明して下さった(株)里山建築研究所の居島さんによると、壁、床、天井などに天然素材の杉材を使用することで、アトピーや喘息がなくなったとのことで、子どものいる家庭には最適であると感じました。ま

2件目のB邸は、古民家の松の梁がリビングで再利用されていました。松の梁を再利用するにあたっては、棟梁をはじめ、現場では大変なご苦労があったようでした。施主のお母様の部屋は、以前敷地内にあった小屋で使われていた梁を再利用した、やわらかな空間となっていました。また、(株)里山建築研究所の安藤先

生からは、松について、なぜ戦後日本人が松を植えたのかをレクチャーしていただき、とても勉強になりました。(佐久)

生からは、松について、なぜ戦後日本人が松を植えたのかをレクチャーしていただき、とても勉強になりました。(佐久)

今 回初めて板倉構法の家を見学させていただきました。

板倉の家の構成について、また日本の森林資源についてなどいろいろな話を聞かせていただき、建築を通して日本の環境や文化について考え、守り、伝承していく家づくりをされているのだと感じました。

また2つの住宅を実際に見せていただくことで、それぞれの良さ、違いをより感じることができました。参加できてよかったです。

また機会がありましたら、参加したいと思います。ありがとうございました。(叶野)



ラブアークセミナー「クリスマスアレンジメント作り」 皆さんとモノづくりする楽しさを共有！

今 回のセミナーは、クリスマスのアレンジメント作りということでしたので、ぜひ体験したくて参加しました。クリスマスが近いこともありましたが、どんなアレンジで形にしていくのか、とても興味がわきました。最初は戸惑いもありましたが、講師の方から丁寧な指導をいただいで、初対面の方々とも作品を見比べながら、とても楽しく製作することができました。

私の場合は華やかなイメージという題材。基本は鹿のパズルを組み立てて丁寧にのり付けをしていき、題材に応じて出された飾り付けをしていくというものです。簡単なようですがセンスのいる繊細な作業なので、皆さん悩みながらも楽しんで作業をしていました。その、楽しみながら一生懸命作業に打ち込んでいる空気感がとてもよかったです。普段



作品を囲んで

とは違う環境で皆さんとモノづくりをする楽しさを知ることができ、短い時間でしたがとてもいい経験をすることができました。ありがとうございました。

わくわくセミナー「筑波実験植物園見学会」 広大な園内に驚きの不思議植物が5000種類も！



さすが実験植物園だけあって、初めて見る珍しい植物がたくさん

平 成28年11月17日(木)に、「筑波実験植物園」の見学をしました。私は、家も近く植物が好きなので以前から時々訪問していますが、ガイドの方の説明を聞きながらというのは今回が初めてでした。

この実験植物園は、「国立博物館」が植物の研究を推進するために設置した機関です。そのため入館料も安く、広大な園内には温帯地域から熱帯地域まで、世界中の植物が5000種類もあるそうです。

今回のガイドの方の専門は水中植物ということで、なかなかマニアックな説明に驚きました。水の上では一般的な植物に見えても、「レンコン」のような根っこを持っている植物など不思議がイッパイ。そして、その種類の多さにも再度驚かされました。

個人的には、サバンナの温室が好きです。サボテンが巨大だったり、大きな花が咲いていたり。日本ではテーブルに乗るような観葉植物が何メートルにもなっていたりします。

今回が初めての訪問という建築士さんたちもいらっしゃいました。近くて安くて楽しい「筑波実験植物園」。どうぞ訪ねてみてくださいね。



ガイドの方の説明



わくわくセミナー「電力自由化のいま」 エネルギー業界の陣取り合戦から建設業界との関わりまで



講師の星氏

平 成28年10月27日(木)、東部ガス(株)の星氏を講師に迎え、電力自由化についてのセミナーが開催されました。

まずは「なぜ自由化する必要があったのか」から始まり(つきつめれば国の貿易収支赤字解消にいきつくとか)、電力料金を決めるしくみが自由化の以前・以後でどう変わったのか、

深夜料金はなぜ安かったのか等の話を伺いました。

電力会社・ガス会社とも、自由化以前には基本的に“領地とったモン勝ち”の商売で、一度販売エリアが決まったら他の会社は参入できず、黙っていてもある程度の利益は保証されていたそうです。それがこの自由化によって、相手の領地切り崩しOKとなり、今までのやり方はもう通用しなくなった、と。領地(顧客)確保のために、最強の東京ガス(資本金ハンパない世界最大の民間会社とあっていいとか)を中心にして、手を組むのか真っ向勝負にいくのか、それぞれの会社で社長クラスが駆け引きし、戦略を練りまくった結果があ

の料金設定なんですよーっ…。

裏の事情はさておき、消費者にとっては電力小売会社の選定はとても簡単なようで、「スマートメーター」の設置さえ終わってれば、それぞれパソコン等でちゃっちゃで終わり。そのため小売り会社にとっては明日にでも替えられてしまうかもしれないなかで、初期投資をどうするのか、その辺りで建設業界との関わり方が変わってくるでしょうと。

他に、大災害が起きたときに、いかにエネルギー供給を切らさないようにするかの取組みなども伺いました。今生活している下で、様々な対策がとられていることがよくわかりました。



わくわくセミナー「茶道から見た日本人のこころ」 日常生活にも生きる茶道の「心」を学ぶ

秋 の気配を感じ始めた平成28年9月29日(木)、大日本茶道学会 茶道正教授・前野仙雅さんを講師にお招きし、茶道の世界を通して、日本人が持っている「心」についてを参加者16名で学びました。

「茶道」というと敷居が高く特別な儀式…こんな印象を持つ方がたくさんいると思います。しかし、普段の何気ない日常生活の中にも茶道の心得は存在し、日本人にはその心が備わっている。そんな気づきをさせてくれる講義となりました。まず前半は、茶道の歴史から始まり、お点前の流れ、所作の説明、茶道の持つコミュ

ニケーションやホスピタリティについて、実体験を交えながら細かく教えていただきました。そして、どの動作にも意味があり、それが全て「相手を思う心」からきている事を知りました。後半は、日常生活で使えるお茶のいただき方を、実技を通し指導していただきました。季節を感じる和菓子を準備したので、目でも舌でも楽しめ、和やかな中での体験となりました。茶碗の扱い方やお菓子の食べ方、お菓子の取り方にも人を思うやり方があり、自分より後の方や準備してくれた方への心配りの仕方を知ることができました。ちょっと会釈



講師の前野先生から心得を学ぶ

をする、手を添える、お箸の置き方を工夫する、自分の発する音を意識する。少しの動作でこんなに印象が変わるものかと驚きました。さあ、日常生活にどう活かそうか…。図面を置く時、キーボードを叩く時、テーブルにお醤油を置く時、トイレの列に並ぶ時など、日常生活でも「心」を意識する場がたくさんありそうです。素敵な日本人になれるように「意識」したい、と思えたセミナーでした。

第11回都市景観ウォッチング 大洗で「ちょっとディープな路地歩き」

START!



旧防波堤



ディープな路地へ



道祖神社



須賀神社前の階段



須賀神社



かま家でみんなで昼食! 撮影: 松下 理

GOAL!



西福寺



海防陣屋から海を見る



初めて通る道ばかり



平 成28年11月19日(土)、ガールズ&パンツァーのファンに人気の〈聖地〉大洗町において、「ちょっとディープな路地歩き」を行いました。この催しは県央支部企画委員会が毎年行っているもので、一般市民から参加者を募集し、街歩きを通して生活や歴史・今後の街のありかたを語ってもらい、建築士と市民、街をつなぐことを目的とした企画となっています。

あいにくの雨でしたが、市民の方々23名、建築士会員7名、大洗観光ボランティア3名の計33名で行われました。主なルートは旧防波堤→道祖神社→旧水戸藩海防陣屋→西福寺などで、地元の方も通らないような路地を歩き、昼食後は希望参加で大洗マリーナまでの工程でした。

毎回反省は多いのですが、多くの方々に〈建築士〉を知ってもらう良い機会であり、他の支部にもお勧めの企画と言えます。



「新日鐵住金鹿島製鐵所・ケイミュー鹿島工場見学会」を開催 「鉄」と「外壁材」の迫力ある生産現場におもわず興奮！



新日鐵住金鹿島製鐵所前で記念撮影

毎年恒例の工場見学会。今年は県央支部企画委員会と青年・女性部会の共催で、平成28年9月28日(水)に開催しました。行き先は、建築現場に欠かせない「鉄」を生産する製鐵所と、「外壁材」を生産する工場。平日の見学会ながら、23名のご参加をいただき実施することができました。

最初に訪れたのは「新日鐵住金鹿島製鐵所」。東京ドーム220個分の敷地に12,200人の方々が3交代シフトで働き、年830万トンを生産する世界最大級の製鐵所です。数字を聞くだけですごそうです。ヘルメットに防塵メガネ、作業服に着替えてバスで工場内へ。転炉→高炉前で記念撮影→厚板工場の順で、いざ見学。

まずは「転炉」。高炉で溶かした熱々の銑鉄を転炉と呼ばれる炉に移して燃やし、不純物のない鋼をつくる工程です。巨大な炉が扉の向こうから現れる姿はダイナミック！劇団四季の舞台装置を見ているかのような迫力です(たぶん)。次に見学したのは「厚板工場」。1,100℃に熱したスラブと呼ばれる鋼の板を、

いくつもの圧延機を通しながら規定の厚みにしていく工程です。オレンジ色に光る鉄の板が、延ばされながらローラーの上をあっちこちと滑る姿は、まるでエアホッケーの円盤の様に軽やか。ここで造られた厚板は、ダムや橋の工事や造船等で使われるそうです。

次に訪れたのは「ケイミュー鹿島



初めに工場概要について説明を受ける



いざ工場内へ



ケイミュー鹿島工場で記念撮影

工場」。久保田鉄工の工場としてスタートし、松下電工との事業統合を経て、現在は主に寒冷地向けに窯業系と金属系の2種類の外壁材を製造しています。窯業系サイディング工場は、成型・加工・塗装・梱包と多くの工程が自動化され、人の手を汚すことなく一つの建物の中で完成品ができて上がっていきます。私の勤める工場とは設備も何もかもが段違い(うらやましい!)。金属サイディング工場では、いろいろな色の金属板を元に、模様に応じた金型を製造ラインに入れ替えて、様々な商品を生み出しています。ケイミューの金属サイディングは高いデザイン性が特徴で、柄のシャープさと深さは業界一だそうです。

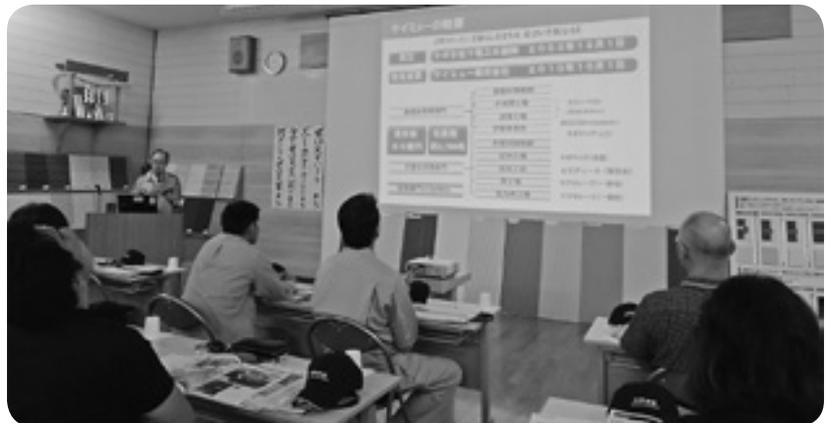
一日行程の長時間ではありましたが、盛りだくさんの楽しく有意義な見学会になったと思います。準備をしていただいた稲野辺様、中崎様、大鐘様に感謝を申し上げ、活動報告を終わります。(松下)

平 成28年9月28日(水)、建築士会県央支部企画委員会・青年・女性部会共催による工場見学会に参加しました。

まず初めに「新日鐵住金鹿島製鐵所」へ向かい、広大な敷地をバスにて移動し工場の内部へと入ります。急ぎ足で入った製鋼工場ではその時まさに転炉という不純物を取り除いた鉄を次の設備へ移動させる工程が行われており、巨大な釜から真赤に溶けた鉄が流れて行く様と熱気に皆圧倒されていました。

次に圧延工場を見学し、昼食を

取った後「ケイミュー鹿島工場」へ向かいました。鹿島工場では金属系と窯業系サイディングを製造しており、2棟の工場を見学します。窯業系の工場内では養生前の粘土状の原料サンプルに触ることができ、よく見るとビーズのような物が入っていました。ビーズは熱すると溶け空洞となり、サイディングを軽量化させるのだそうです。そういったアイデアや企業努力によって普段私達は支えられていることを改めて実感することができ、とても有意義な1日となりました。(三輪野)



ケイミュー鹿島工場の説明の様子

平成28年度「茨城県元気な森林づくり活動」支援事業 県産ヒノキ材を使った「すのこ作り体験」が大盛況！



延200名のお客さんでにぎわいました

上手に金槌を使えるかな？



再生可能な木材の生育の仕組みや森林整備の重要性を学んでもらうため、県産の木材を活用し、地域の子どもの育成と親子のコミュニケーションを図る「すのこ作り体験」を開催しました。

平成28年11月23日の勤労感謝の日、龍ヶ崎商店街大通りで行われた商業まつり（いがっぺ市）では、約1.8kmを歩行者天国にしてイベントや物産販売などが行われました。その中心「にぎわい広場」にて、竜ヶ崎支部は、茨城県産のヒノキ材を使用した「すのこ作り体験」を実施。木のぬくもり、作る楽しさや親子のふれあいを感じていただけるよう、建築士会が安全な金槌の使い方を指導・サポートし、地域住民の皆さんと一緒にものづくりを楽しみました。またパネルやプリント等で、森林育成の大切さもアピールしました。

建築士会員13名、一般参加者は



みなさんお疲れさまでした！

延べ200名。予定の時間は午前10時～午後3時30分でしたが、予想以上に反響が大きく、午前中にはすべての材料が配布済み。その後は、すのこの端材で作ったヒノキのコスター、積み木、ミニ上棟体験、釘打ち体験、塗り絵体験などを楽しんでいただきました。

参加した方々のアンケートからは、「はじめて金槌を使った」「子どもが楽しくできた、危なくない！」「楽しかった」「またやって欲しい」などの感想のほか、「DIYの講習」や「耐震無料相談」を、とのご要望をいた

だきました。建築士会に期待する皆さまの声を収穫として、今後の活動に役立てたいと思います。

今回の事業を開催するにあたり、企画立案から申請書の作成→打ち合わせ→段取り→下地加工準備→当日と、忙しいなか何度も「元気な森林づくり活動」の準備に参加してくださった支部会員の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

初めての森林づくり事業活動だったので準備が大変でしたが、子どもたちの真剣で楽しそうな笑顔が忘れられません！



地元イベント、全国大会、つくばマラソン 耐震啓蒙活動や建築士会のPR活動に全力で励んでいます！



「くさぎさきまつり」に出展し、耐震診断をPR

耐震啓蒙活動

「つくば市産業フェア・農産物フェア」(10月23日)、「くさぎさきまつり」(11月20日)に出展し、建築士会と住宅の耐震診断についてPRしました。熊本災害の写真なども展示したブースには、盛んに質問される方やパンフレットをお持ちになる方など、多くの方が足をとめてくださり、耐震性への関心の高さがうかがえました。

さらに住宅の耐震化についての意識度調査のため、つくば市のアンケート調査にも協力しました。

大分全国大会・建築視察

10月22日、大分での全国大会へ参加してきました。昨年は潮田充顧問が表彰を受けましたが、今年は前支部長の野口さんが表彰を受けられました。素晴らしいオープニングセレモニーから始まり、盛大な大会が開催されました。

建築視察も、限られた時間でしたが、有意義な建築を見ることができました。「大宰府天満宮・スターバックスコーヒー(設計：隈研吾)」



「つくば市産業フェア・農産物フェア」にて

国立競技場で名高い隈研吾の作品…自然素材による伝統と現代の融合。「長湯温泉郷のラムネ温泉館(設計：藤森照信)」焼杉材の外壁と漆喰の白い壁が織りなすコントラストのすばらしさ。細い細い山道を1時間もかけて走ったかいがありました。もう2度と行けません。

そのほかにも、宮地獄神社・ピーコンプラザと盛沢山でした。次年度全国大会は京都、またいろいろな建築を見に行きたいですね。

つくばマラソン大会参加・ 建築士会PR

11月20日、「つくばマラソン」に青年部の皆さんと参加しました。スポーツ・レクリエーションを通じて士会の親睦を図れるように、ま



上：全国大会「大分大会」 中央：大宰府天満宮・スターバックスコーヒー 下：長湯温泉郷のラムネ温泉館

た新入会員増員のPR活動として、今年初めて参加企画しました。お揃いの筑波支部のポロシャツも作成。会場で立てた建築士会のぼり旗は、大勢の中でも目立つマークとなっており、よい集合ポイントとなっていました。

私も含め、みなさん大変きつい状況ながら、フルマラソンを完走することができました。



つくばマラソン大会に参加。見事にフルマラソン完走！

支部の心かよう仲間たちとじっくり楽しんだ 恒例の「木工教室」と「建物見学会」



2年ぶりの木工教室



子どもたちと鍋敷き作り



江戸東京たてもの園を見学

平 成28年11月13日(日)に、「常総ふるさとまつり」の会場内にて、毎年恒例の木工教室を行いました。昨年は水害によってまつり自体が中止。2年ぶりの開催でした。

毎回短時間で簡単にでき、満足感が得られるものを企画委員会で話し合い、高野さんを中心に下準備を行っています。これまで、鳥の巣箱、腰掛け、家型貯金箱などを作ってきました。

今年の作品は「鍋敷き」。木を組んで叩いてしっかりと固め、釘を使わなくてもこれだけしっかりするのだと体感した後で、裏面に板を釘で留めていきます。鍋敷きだけでなく壁に掛けて写真などを飾るフレームにもなるよう、考えたものでした。

まつりがスタートして間もなく、子どもたちが次々と訪れて、用意されていた材料が午前中のうちに全て無くなりました。淡々と作業する子どもが多いのですが、でき上がった時

は皆笑顔がこぼれます。束の間の手作り体験が、感受性豊かな子どもたちの心に響いて、いい思い出になってくれたらと思います。

11月27日(日)には、これも毎年恒例の建物見学会を行いました。行先は「江戸東京たてももの園」。実は数年前にも同じ見学会で訪れています。行き先の候補は企画委員会にていくつか挙がりましたが、「また行きたい」という希望があり決定しました。

一度行けば、もう何か分かったような気になっていることがあります。また、建物はその土地に合わせて作られたものだから、各地から集めて疑似的なまちなみに整えた「たてももの園」では味気ないと頭で決めつけているところがあります。

ここを訪れるのは4回目。それで何を感じたか。もう、見慣れた感がまずありました。次に感じたのは、前川國男邸が思ったより小さいこと。

吹き抜けの部屋も、記憶にあるものよりこじんまり感がありました。また、堀口捨己が設計した小出邸では、全体的にクラフト感を感じて楽しい気分になりました。そしてやはり一番脳にも心にも響いた場所は茅葺屋根の農家です。囲炉裏で火を焚いており、懐かしい匂いに包まれていました。かまどや簡素な流し台にもなぜかわくわくするものがあります。

「また来たよ」が「ただいま」な親近感にシフトして、その建物、場所が緊張感なしに、ありのままに体験できました。また、皆さんと一緒に見て回ることで、自分の知らないことをいろいろと教わることもできました。

来年はどこへ…帰るころには早くもそんな話題になっていました。